

施設概要及び検討状況の報告 (科学館 (スペース L A B O))

科学館の概要

- 国内最大の大型竜巻発生装置、科学の不思議を体験・体感できる展示や、国内最大級のドーム径30メートルのプラネタリウムなどを有する施設
- 小中学生以下の子どもを含む、ファミリー層の利用が多い



施設概要

項目	内容
設置目的	科学及び技術に関する展示等を行うことにより、科学及び技術への興味及び関心を高め、もって科学技術の振興を担う技術系人材の育成を図る。
所在地	八幡東区東田4丁目1-1
開館時間	10：00～18：00（年末年始除く） ※プラネタリウム夜間投映日あり ※繁忙期には開館時間の前倒しを実施
開設時期	令和4年4月

理 念

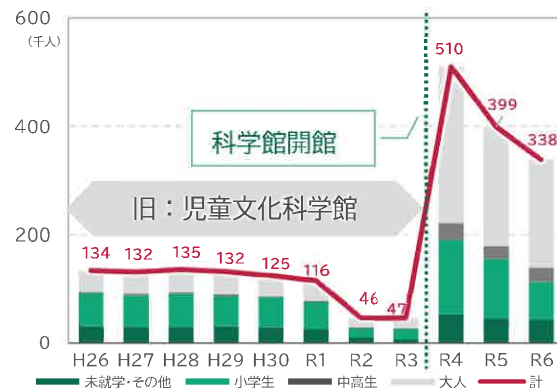
一人一人が感じる「フシギ」の芽を大切に、
その芽をさらに育てていく
体験・体感型の科学館

※ キャッチフレーズ 『フシギがれ！』

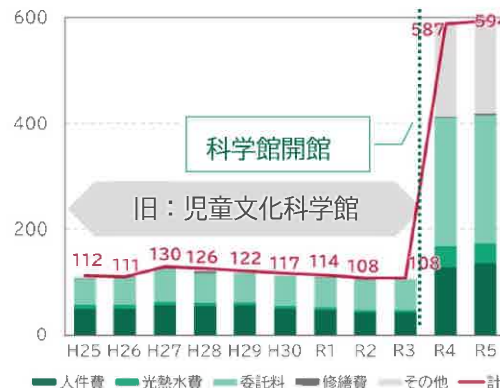
その他

- プラネタリウム番組や企画展等のイベントなど、継続的に新たな魅力を発信
- 平日の集客増のため、市外の学校や旅行代理店への効果的なPR
- 市内の全小学4年生を対象とした天文学習など、教育普及事業のさらなる充実
- 地元企業・大学の協力による展示など、連携を継続

入館者の推移



維持管理費の推移



来館者数減少に対する問題意識

ユーザー目線、エンタメ視点による問題意識

	ソフト(展示・コンテンツ)	ハード(施設)	資源(予算・人員)・他
短期 年度内	①館内でのサイエンスショーなどの案内表示がなく、来館者への周知が不足している。 →対応済(掲示板設置) ②施設内の多言語表記等が不十分のため、インバウンドの来館者が気軽に楽しむことができない。 →検討中(プラネ字幕投映)	①出入口に掲示物が多いため、来館者が知りたい情報が目につきにくい。 →対応済(館内掲示物を整理) ②入館料の支払いが現金だけのため、来館者の利便性が損なわれている。 →検討中(キャッシュレス決済の導入を関係部署と協議中)	①企画展示室の利用率が低い。 →実施中(企画展回数増) ②アウトレット内の立地条件を集客に十分に結びつけられていない。 →協議中(アウトレットイベントとの連携)
中期 3-5年	①展示解説などの館内コンテンツの充実やプラネタリウムドームの多目的利用が必要である。 ②館内(本館)に食事場所や待機スペースがなく、学校関係団体や家族連れ等のニーズに応えられていない。		①デジタル技術を駆使した展示が多く、機器の更新の予算確保に苦慮している。 ②ANNEXの老朽化にともない増加する維持補修費の確保が必要である。
長期 5-10年	①科学技術や天文への関心を高めることができる既存展示の更新には、地元企業や大学等の協力が不可欠である。	①本館とANNEXとの回遊性を含めた効率的で効果的な運営が必要である。	①館の魅力向上のためには専門職としての学芸員などの人員体制の充実が必要である。



概況

【短期】 多様なユーザーが科学を楽しみながら理解を深めることのできる工夫が必要
 【中期】 本館スペースの有効活用や設備更新の検討が必要
 【長期】 既存展示・コンテンツの更新や本館と分館のあり方の検討が必要

利用者満足度ヒアリング調査結果

スペースLABO 【科学館】
KITAKYUSHU CITY SCIENCE MUSEUM

- ◆ 来館者の7割が家族と一緒に訪れ、30～40代の子育て世代が約5割を占めている。
- ◆ 展示は実際に触れて体験できる点が好評。施設が新しくきれい、受付スタッフの対応や清掃状況も満足の声が多く、「また来たい」という意見が9割を超えている。

実施概要

- 期間：2025年3月1日 ～3月16日
- 方法：職員による館内ヒアリング
- 回答：80人



満足している点

- 不思議に思ったことをすぐに触れて体験できる、高校生や大人でも楽しめる
- 子どもが自分で体験できる科学イベントが良かった（ポケットサイエンス）
- 施設が新しくきれいで、清掃状況も良い
- 展示全体が見やすい、トイレにある科学のヒントがわくわくさせる
- 料金設定は「ちょうど良い」または「割安」の意見のみ

改善してほしい点

- ライトが反射して見えにくい展示もあった
- プラネタリウムの回数を増やしてほしい
- 展示解説をもっと聞きたい
- もっと宇宙の話やプラネタリウムのイベントをしてほしい
- お土産を増やしてほしい
- アウトレットから遠く、案内看板が少ない

科学館の他都市類似館比較

※ 入場者数・支出・収入…R4時点
※ 職員数…R6.4.1時点（館長除く）

appendix

- 他都市類似館と比較して、入場者1人あたりの行政の負担額は平均的（1.0千円）である

※ 収支の内訳など、他都市比較に必要な詳細情報を聞き取っているため、各館の希望により名称等非公表あり

施設名		【北九州市】 科学館	さいたま市 青少年宇宙 科学館	川崎市 青少年科学館 (かわさき宙と 緑の科学館)	A科学館 (政令市)	広島市こども文化科学 館	B科学館 (政令市)
人口（R5.10.1）		914, 620	約1, 300, 000	約1, 500, 000	約1, 500, 000	約1, 200, 000	約1, 600, 000
運営方法		直営	直営	直営（学芸） 指定管理（施設）	指定管理	指定管理	指定管理
展示面積（㎡） （学芸員1人あたり）		1, 863 （932）	1, 580 （-）	769 （256）	5, 710 （-）	1, 038 （104）	1, 895 （1, 895）
入場者数（人） 【A】		510, 063	110, 568	249, 649	374, 905	261, 639	614, 080
（人） 職員 数	事務職	21	18	8	48	4	56
	学芸員	2	0	3	0	10	1
支出（千円）【B】		650, 056	289, 812	174, 463	457, 876	186, 602	520, 731
収入（千円）【C】		121, 080	21, 064	10, 748	82, 389	10, 791	98, 109
入場者1人あたりの 負担額【B-C】÷【A】 （千円）		1.0	2.4	0.7	1.0	0.7	0.7

出所) R6北九州市聞き取り調査より(支出・収入は行政帰属分、支出は北九州市独自単価で直営人件費を加算)

SWOT分析

北九州市科学館の理念と課題

《 理 念 》 一人一人が感じる「フシギ」の芽を大切に、その芽をさらに育んでいく体験・体感型の科学館

《 課 題 》 社会教育機能を果たしながら、大型商業施設内に立地する強みを活かし集客を強化する



内部環境

強 み

- 施設・展示の新しさ
- 国内最大、最大級の展示・設備（竜巻装置、プラネタリウム、月の石）
- 児童文化科学館時代から蓄積してきた展示解説などのノウハウ

弱 み

- 常設展示に変化がない
- 本館は講座・イベントを開催するための施設・機能が不十分
- 企画展示室の利用率が低い
- 分館へのアクセスが悪い

機 会

- 集客力のある大型商業施設内に立地
- 多様な文化施設等が存在（博物館、美術館、環境M、漫画M、世界遺産など）
- 社会教育ニーズの高まり

脅 威

- 少子化・人口減少による利用者の減少
- 物価・人件費等の高騰

強み × 機会

- ジアウトレットとの連携事業による集客効果の最大化
- 利用者増に向けた施設の魅力アップの取組強化
- ニーズに合ったコンテンツ充実

強み × 脅威

- 幅広い世代の団体誘致に向けたニーズの掘り起こしなど集客力向上
- 科学館の魅力向上に向けたサイエンスコミュニケーションの機会増
- 広報の強化（ターゲットの明確化、手段（SNS等）の工夫）による魅力の発信

弱み × 機会

- 常設展の展示解説ツアー等の充実
- 他の文化施設と連携した企画展示室の有効活用
- 本館とANNEXのみならず他の文化施設等との連携による回遊性向上

弱み × 脅威

- 事前予約優先の見直しなど利用しやすい館づくり
- 館内スペースの有効活用
- 憩いの場、くつろげる場の提供

外部環境

科学館 ミッションの再確認

ミッション（現行）

さまざまな方が科学を通じて交流し、
科学技術への関心を高め、創造的な活動の拠点として、
北九州市の未来を創る原動力になること

<ミッション推進の基本機能>

- ① 身近な現象をベースに科学の原理・原則や最先端技術が体感できる展示
- ② 天文学習をはじめ、さまざまなプログラムが投影可能なプラネタリウム
- ③ 科学館でしか体験できない教室・講座等を実施
- ④ 企業や大学、市民など関係団体等との連携・協働



① 設置目的（条例）

科学及び技術に関する展示等を行うことにより、
科学及び技術への興味及び関心を高め、もって科学技術の振興を担う技術系人材の育成を図る

② 基本方針

- 1 誰もが科学に興味を持つきっかけづくり
- 2 技術系人材の育成
- 3 北九州市の技術の発信
- 4 周辺施設と連携した賑わいづくり、集客アップ

【ミッションの再確認にあたって】

国の法改正や北九州市・新ビジョン、北九州市の文化芸術に関する新プラン等を踏まえた視点

① 文化観光の視点

国の法改正等により、博物館などは、文化観光など、求められる役割が多様化している。

② 新プランの視点

◆基本理念

まちに彩りを。心に豊かさを。多様な人を惹きつける文化共創都市。

◆はじめに～抜粋～

文化芸術がもたらす本質的・社会的・経済的な価値をさらに引き出す。

③ ユーザー目線への転換

供給者目線ではなく、ユーザー目線への転換。

④ 社会教育ニーズへの対応

社会教育ニーズの高まりに対応した教育普及活動の拠点としての役割の増大。

第1回 北九州市科学館運営検討部会 意見まとめ

※ 科学館では運営形態の検討に向けて、第1回部会において館のミッションの再確認とミッション達成に必要な視点について議論を行った。
主な意見は以下のとおり。

		主な意見
科学館のミッション	さまざまな方が科学を通じて交流し、科学技術への関心を高め、創造的な活動の拠点として、北九州市の未来を創る原動力になること	開館して4年目でもあり、当初設定した科学館のミッションを見直すには時期が早い。 そのため、 <u>ミッション達成に必要な視点の見直しや追加をすることで付加価値向上を考えたほうが良い。</u>
ミッションの達成に必要な視点	① 文化観光の視点	
	② 新プランの視点	
	③ ユーザー目線への転換	・チケット購入がスムーズにできない(受付の案内オペレーションに重複がある)。 ・館内で質問があったときにどのスタッフに聞いたら良いかわからない。 ・コストをかけずに魅力向上するには特定部分へのフォーカスが必要。 ・無料ゾーンがあることが知らせていない(ウェルカム感がない)。 ・予約が前提のイメージが強い(気軽に立ち寄れる雰囲気がない) ・展示解説を聞くとさらに展示内容の良さが伝わる(多言語化も必要)。
	④ 社会教育ニーズへの対応	・小学低学年や幼稚園児には手を使った工作経験が必要。 ・簡単にで良いからモノには仕組みや構造を伝えることが必要。 ・特に中学生には自ら学ぶことの大切さを知ってもらいたい。 ・学校現場の働き方改革による学校だけの教育に限界も出てきている感じある。 ・学校の実験でわからなかった、できなかったことを科学館で再体験ができれば良い。
	⑤ イメージ戦略の視点	・広報力が弱く、ユーザーに伝わっていない。 ・日本最大級のプラネタリウムや無料で見られる本物の「月の石」「アポロ」など、ウリになる施設やコンテンツがあるのにアピールできていない(「本物」の記載がない)。 ・新科学館といっても「児童文化科学館」のイメージのままの人もいる。
	⑥ 企業連携の視点	・隣接のアウトレット施設と合わせた「非日常」を体験できるプラネタリウムの活用が必要。 ・JRと連携した切符とのセット券があるとシニア層などは来館しやすい。
	⑦ 地域や他分野との連携の視点	・高齢者には認知症予防の観点からも工作体験のニーズは高い。 ・高齢者の科学館への関心が高まれば、連鎖的に孫世代も科学に触れる機会が増す。
次回以降検討の方向性	① 前回の意見、統計データを踏まえた付加価値向上の取組について ② 他都市科学館運営状況について ③ ミッション達成・付加価値向上に最適な運営形態の検討	